

小面積で省力化!

(奈良県・明日香村農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

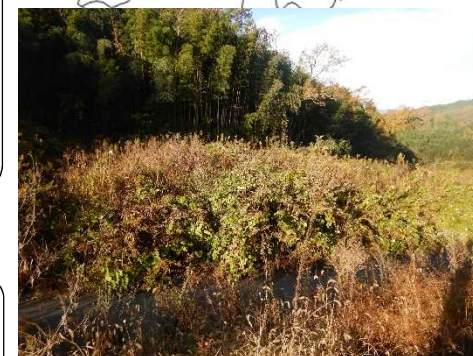
その他(農業
委員会の体
制強化等)

【農業委員会の体制】(令和2年7月20日移行)
○農業委員14人、農地利用最適化推進委員6人

1 地区の特徴・状況、課題

○本村は、奈良盆地の南東部に位置し、大阪から約40km、奈良市から約25kmの圏内にあり、飛鳥時代の6世紀末から7世紀にかけて「都」が営まれた地域であり、村内には宮跡・寺院・古墳などの文化遺産が数多く存在し、周囲の田園景観と一体となって歴史的風土を形成している。

○本村の農業は単に農作物の生産機能を担っているだけでなく、歴史的風土の保存においても、極めて重要な役割を果たしているが、本村においても農業従事者の高齢化、後継者不足が深刻な問題となっている。また、米価の低迷や有害鳥獣による農作物の被害などにより、農業者の生産意欲の低下や耕作放棄につながっている。



解消前

2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○農業委員会(農業委員・農地利用最適化推進委員)は、耕作放棄地解消活動の一環として、端境期対策や脱3密を意識した小面積な農地において、リモコンによる自走式草刈機の実演や乗用の定植機などを使ったり、生分解性マルチをマルチ張機で敷設するなど作業の省力化を実践した。同時に有害獣被害を防ぐため電気柵の正しい設置方法などの実演を行った。

また、R4. 3に実施される飛鳥ハーフマラソン沿道の一部遊休地において、ベニバナを作付けするなど景観形成についても啓発。



解消後

3 活動(取組と工夫)の結果

○農業委員・農地利用最適化推進委員に新技術を身近に感じてもらい農業者に啓発を実施。

○正しい電気柵の設置による、獣害対策の強化。